

芸術文化ゾーンだより 13

市で整備を進めている野外芸術文化ゾーンについての話題を紹介しています。

作品紹介② ロン・ミュエック

エントランスをくぐり、来館者が最初に訪れる展示室。ここでは、高さ3.5mに及ぶ巨大な女性像に圧倒されることでしょう。これはオーストラリア出身の作家、ロン・ミュエックの作品です。

ミュエックは1958年生まれ、90年代からアーティストとしての活動を本格化させました。日本では、2003年に東京国立近代美術館、06年に東京都現代美術館などで作品が展示されています。

彼はもともと映画や子ども番組の模型造形に携わっていたこともあり、その人体はシリコンやファイバーグラスなどの素材を用いて、しわや血管が浮き出た皮膚の質感から、毛髪、毛穴に至るまで超リアルに表現されています。

また、その人体サイズは大胆に変化され、イタリアのベネチア・ビエンナーレ（隔年で実施する大規模な美術展）に出品された高さ



ロン・ミュエック
十和田市現代美術館への提案作品
copyright Ron Mueck

問い合わせ先 企画調整課 (☎05111内線162)

5mの少年像や、ロンドンのナショナルギャラリーに展示された1/2サイズの分婉直後の母子像など、ことごとく平均的な身体サイズから懸け離れていて、鑑賞者にどこか奇妙な感覚を与えます。ミュエックの超リアルな表現法は、空間のスケールをゆがめることにより、人間の本质や身体を持つ、ふだん気づかない特異性を余すことなく鑑賞者にさらけ出し、問いかけているようです。

本市のプロジェクトでは複数の作品提案がありましたが、最終的に女性の像になりました。女性は母性の象徴であり、この巨大な女性像は新しいものを生み出す存在として、新しい美術館の誕生、そして本市や鑑賞者の未来をも祈念しているかのようです。

桂月の文学碑を訪ねて 17

大町桂月は、『十和田湖三絶景』と称して次の3カ所を選び、和歌とともに絵を残しています。

今回は、桂月が推薦する『十和田湖三絶景』を紹介します。

ひとめよたき
一目四瀧

「右ひだり 桂もみじの

影にして

瀧を見る目の

いとまなきかな」



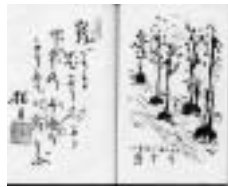
川千鳥

「巖いわごとに 苔こけあり木ある

川中の

千鳥かすめて

川かわ鳥がらすとぶ」



千丈幕

「大空を

たちさる巖いわの幕うちの中

神かみやまします

龍たつやひそめる」



四瀧とは、白絹の滝、白糸の滝、不老の滝、双白髪ともしろがの滝で、国道に立ち左右を見渡すと、四つの滝を見ることができ、この場所を、桂月は「一目四瀧」と名づけています。

川千鳥は、奥入瀬溪流阿修羅あしゅらの流れの上流にあります。桂月が別の書では、千鳥を九十九鳥とも書いていて、現在では「九十九鳥（くじゅうくしま、またはつくもじま）」といわれています。

千丈幕は、御倉半島の断崖だんがいで、桂月の絵で分かるように湖から見るができます。「：何か名あるかと問えば、無しといふ。千丈幕と名付けて如何いかにと云えば、みな可と称す。：」と紀行文にあるように、千丈幕の名付け親は桂月です。

この3カ所は、観光ガイドが必ず案内する名所です。

問い合わせ先 総務課文書広報係 (☎05111内線156)